結果

　本研究は，独立変数としてモダリティと試行回数を設定した。モダリティ要因については音声刺激と画像刺激という２水準を設定し，試行回数要因については１回目，２回目，３回めという３水準を設定した。参加者ごとにそれぞれのモダリティ及び試行回において，平均反応時間（ms）を算出した。この結果を条件ごとに示したのが表◯である。

参加者内２要因の分散分析を用いて，モダリティの主効果について検討したところ，有意差は認められなかった（*F*(1, 8)= .838, *p* = .387 , *η*2 = .095）。試行回数の主効果について検討したところ，有意差は認められなかった（*F*(1, 16)= 2.211, *p* = .160, *η*2 = .217）。さらにこれら２つの要因について，交互作用を検討したところ，有意差は認められなかった（*F*(1, 16)= 2.252, *p* = .143, *η*2 = .220）。